

奈良国立文化財研究所概要



1 9 8 7

目 次

沿革	付年表	2
組織		3
機構		3
定員		3
役職職員		4
予算		4
歳出予算		4
科学研究費補助金		4
施設		5
土地及び建物		5
事業		7
建造物研究室		7
歴史研究室		7
平城宮跡発掘調査部		8
飛鳥藤原宮跡発掘調査部		9
飛鳥資料館		10
埋蔵文化財センター		11
普及活動		12
公開講演会		12
現地説明会		12
刊行物		12
蔵書及び資料		14

沿 革

奈良国立文化財研究所は、文化財保護委員会（現、文化庁）の附属機関として文化財に関する調査研究、資料の作成及びその公表を行うことを目的として昭和27年4月奈良市春日野町50番地に設置された。設立の発端は、吉田茂首相が奈良県視察の際、南都諸大寺に伝わる文化遺産のすばらしさを目のあたりにし、これらの文化財を保護宣揚するため、現地における美術学校又は美術研究所設置の構想をもたれたことによるといわれ、当初は、美術工芸研究室、建造物研究室、歴史研究室、庶務室の4室で発足した。

その後、昭和35年10月には平城宮跡発掘調査事務所（現、平城宮跡発掘調査部）、昭和45年4月には飛鳥藤原宮跡調査室（現、飛鳥藤原宮跡発掘調査部）が、さらに昭和48年4月には飛鳥資料館、昭和49年4月には埋蔵文化財センターの設置をみて今日に至っている。

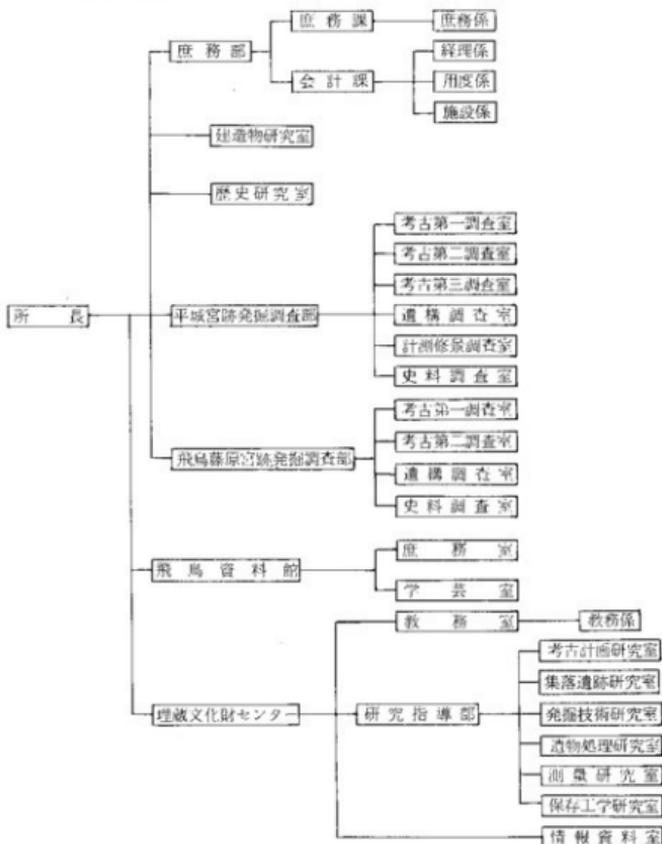
年 表

昭和26.10.6	奈良文化財研究所設置準備規程（文化財保護委員会裁定第11号）により設置準備会充足
27.4.1	文化財保護委員会の附属機関として奈良文化財研究所（庶務室、美術工芸研究室、建造物研究室、歴史研究室）設置
29.7.1	奈良国立文化財研究所と改称
35.10.15	平城宮跡に発掘調査事務所設置
36.9.16	庶務室は庶務課となる。
38.4.10	平城宮跡発掘調査部が設けられる。
39.4.1	同調査部に第一～第三調査室、保存整理室、史料調査室を置く。
40.4.1	同調査部に新たに第四調査室を置く。
43.6.15	文化庁発足、その附属機関となる。
45.4.15	平城宮跡資料館開館
45.4.17	平城宮跡発掘調査部の組織を考古第一～考古第三調査室、遺構調査室、計測風景調査室、史料調査室、飛鳥藤原宮跡調査室と改める。
48.4.12	会計課、飛鳥藤原宮跡発掘調査部（第一調査室、第二調査室）、飛鳥資料館（庶務室、学芸室）設置
49.4.11	庶務部（庶務課、会計課）、埋蔵文化財センター（教務室、考古計画研究室、測量研究室）設置
50.3.15	飛鳥資料館開館。
50.4.2	埋蔵文化財センターに研究指導部設置。同部に遺物処理研究室新設
51.5.10	埋蔵文化財センター研究指導部に集落遺跡研究室新設
52.10.1	埋蔵文化財センター研究指導部に保存工学研究室新設
53.4.5	飛鳥藤原宮跡発掘調査部の組織を考古第一調査室、考古第二調査室、遺構調査室、史料調査室と改める。
53.10.1	埋蔵文化財センターに情報資料室新設
55.4.5	美術工芸研究室を奈良国立博物館（私教美術資料研究センター）に移換
55.4.26	庁舎移転（奈良市二条町）、併せて平城宮跡発掘調査部、埋蔵文化財センターを庁舎に統合
58.10.1	埋蔵文化財センター研究指導部に発掘技術研究室新設

組 織

昭和62年4月1日現在

機 構



定 員

区 分	指 定 職	行 政 職 ()	行 政 職 口	研 究 職	計
人 員	1	23	4	63	91

役職職員

所 長	鈴 木 嘉 吉									
庶務部	部 長 伊藤省三	庶務課	課 長	赤 小 宮	羽 川 本	鍾 照 一	夫 二郎			
建造物研究室			室 長	宮 鬼 頭	清 明					
歴史研究室			室 長	鬼 頭	清 明					
平城宮跡部 発掘調査部	部 長 町田 亨	考古学 考古遺計史	第一 第二 第三 第一 第二 第三	調査室 調査室 調査室 調査室 調査室 調査室	長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長	金 田 利 高	子 迎 光 野 瀨 村 崎 下 本 藤 田 熊	裕 征 俊 邦 要	一 宏 直 史 尚 優 藏 勝	夫 彦 一
飛鳥藤原宮跡部 発掘調査部	部 長 牛川喜幸	考古学 考古遺計史	第一 第二 第三	調査室 調査室 調査室	長 長 長 長 長 長 長 長 長	黒 木 山 加 織 猪	崎 下 本 藤 田 熊	正 忠	史 尚 優 藏 勝	
飛鳥資料館	館 長 鈴木嘉吉	庶務課	庶務課	室 長	長 長	織 猪	熊 健 兼			
埋蔵文化財センター	センター長 田中 琢				教 情 報 室 室 長	東 岩 谷 本	久 次 大 郎			
研究指導部	部 長 佐原 真	考古学 考古遺計史	第一 第二 第三	調査室 調査室 調査室	長 長 長 長 長 長 長 長 長	松 上 西 沢 木 田	久 次 大 郎	生 通 康 昭 藏 雄		

予 算

歳 出 予 算 (単位 千円)

区 分	60 年 度	61 年 度	62年度 (当初)
人 件 費	504,218	523,673	542,240
運 営 費	663,381	698,696	706,478
施 設 費	285,742	279,400	307,925
臨時的経費 (臨時庁舎)	14,305	0	0
計	1,467,646	1,501,769	1,556,643

科学研究費補助金 () 書は件数 (単位 千円)

区 分	59 年 度	60 年 度	61 年 度
特 定 研 究 (I)	(1) 3,000	(1) 3,200	(1) 1,800
総 合 研 究 (A)			
一 般 研 究 (A)	(1) 8,300	(2) 18,500	(1) 3,700
" (B)	(5) 10,100	(3) 3,900	(3) 5,500
" (C)	(2) 2,300	(2) 3,400	(3) 2,800
奨 励 研 究 (A)	(3) 2,300	(8) 6,100	(4) 3,600
試 験 研 究 (1)		(1) 5,050	(1) 1,800
" (2)			
特 別 推 進 研 究 (2)		(1) 64,000	(1) 10,000
研 究 成 果 刊 行 費	(1) 6,870	(1) 6,870	
高 外 学 術 調 査		(1) 5,100	
計	(3) 32,870	(20) 116,120	(20) 29,200

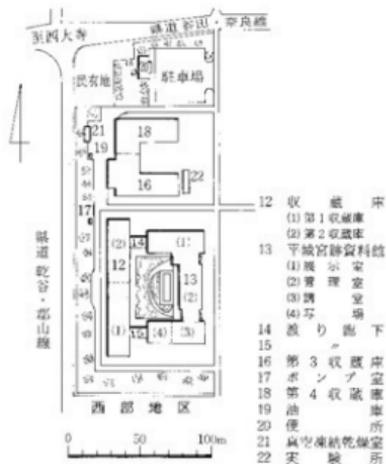
施設

昭和62年4月1日現在

土地及び建物

名称	土地面積	建物		備考
		延面積	面積	
本館	8,860 m ²	2,792 m ²	6,793 m ²	
平城宮跡	1,067,010	8,087	11,074	土地……文部省所管 建物……平城宮跡資料館、覆屋等
藤原宮跡	293,640	36	36	土地……文部省所管
藤原発掘調査部	6,721	プレハブ 3,124	プレハブ 3,240	民有地借上
新庁舎等用地	20,514	0	0	
飛鳥資料館	17,092	1,465	2,682	
旧米谷家住宅	298	190	213	民有地借上 重要文化財
宿命 飛鳥資料館 郡山	1,654 1,343 311	334 225 109	378 225 153	土地 231 m ² 人蔵省所管を含む
合計	1,415,789	16,028	24,416	





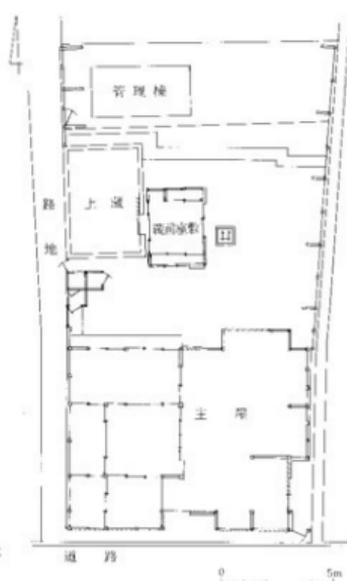
平城宮跡資料館配置図



平城宮跡覆屋（遺構展示館）配置図



飛鳥資料館配置図



旧米谷家住宅配置図

事業

建造物研究室

社寺建築・庭園・民家及び伝統的建造物群に関する調査研究とその結果の公表を行う。



旧米谷家住宅修理後

建造物の調査

歴史研究室

考古、史跡及び社寺等に伝存する古文書、典籍等歴史資料に関する調査研究とその結果の公表を行う。



古文書等の調査

平城宮跡発掘調査部

奈良時代70余年のあいだ都として栄えた平城宮跡等の発掘や調査研究を行うとともに、出土した木器・金属器・土器・瓦・木簡等の遺物や遺構の保存整理、遺構の計測・修景、史料の収集、及びそれらの調査研究とその結果の公表を行う。

さらに発掘調査が終わった地域について、遺構そのものが理解しやすいように修景整備し、あるいは遺構・遺物等を展示して一般に公開している。



平城宮跡全景



発掘された大極殿



内裏井戸の遺構復原

飛鳥藤原宮跡発掘調査部

日本で初めて律令国家体制が形成され飛鳥文化が開化した時代の中心的地域である藤原宮跡及び飛鳥地域における宮跡その他の遺跡の発掘、調査研究を行うとともに、出土した木器・金属・土器・瓦・木簡・遺構等の保存整理・遺構の計測・修景及びこれらに関する調査研究並びに史料の収集及び調査研究とこれらの結果の公表を行う。



藤原宮跡大極殿周辺



山田寺東回廊建物（北から）

飛鳥資料館

飛鳥地域に関する考古資料、歴史資料、建造物、絵画、彫刻その他の資料を収集保管し、調査研究するとともに、飛鳥地域の歴史的意義及び文化財に関し、一般の理解を深めるためこれらを展示して公衆の観覧に供している。



飛鳥資料館全景



石人像（重要文化財）

飛鳥時代の庭園に使われた噴水



高松塚から出土した飾金具と鏡（重要文化財）

入館者数

（単位 人）

区分		年度	昭和59年度	昭和60年度	昭和61年度	
有料観覧	普通観覧	一 般	49,503	51,818	51,734	
		高・大学生	14,697	15,050	14,314	
		小・中学生	16,805	17,428	16,695	
	団体観覧	一 般	24,506	27,728	25,851	
		高・大学生	27,569	36,962	30,310	
		小・中学生	67,915	78,070	81,200	
	計			200,995	227,056	220,104
	無料観覧			10,072	9,929	13,401
	合 計			211,067	236,985	233,505

埋蔵文化財センター

埋蔵文化財に関する調査研究及び関連技術の開発ならびにその結果の公表を行うとともに、埋蔵文化財の調査、保存整理に関し、地方公共団体等の求めに応じ、専門的、技術的な指導・助言を、また埋蔵文化財に関する情報資料の作成、収集、整理、保管並びに調査研究を行い、これらについても広く地方公共団体等の利用に供している。

さらに、埋蔵文化財の調査、保存整理に関し、地方公共団体の職員等に対し技術的な研修を行っており、研修の主な課程は次のとおりであり、昭和61年度までの受講者累計は2,430名である。

区 分	課 程	区 分	課 程
一 般 研 修	一般課程	専 門 研 修	埋蔵文化財情報課程
専 門 研 修	金属保存課程	”	石器調査課程
”	遺跡保存整備課程	特 別 研 修	縄紋施紋法調査課程
”	遺跡測量課程	”	埋蔵文化財基礎課程
”	遺構探査・予備調査課程	”	土層転写課程
”	歴史時代遺跡調査課程	”	遺物取り上げ法課程
”	環境考古課程		



研 修 風 景



情報処理機器 埋蔵文化財関係資料の
情報処理を行う。



P.E.G含浸装置 ポリエチレングリコールを
使用し、木材、木器等を永
久保存するための処理装置



写真測量図化機 ステレオメタログラフE型を
使用して実測図を作成する。

普及活動

(1) 公開講演会

調査研究の結果を一般に公表する一端として毎年春と秋に行っており、最近の講演は次のとおりである。

講演回数	演 題	講演回数	演 題
第57回 (60.5.18)	象嵌遺物の保存科学的研究	第59回	古代における墨書人面上器祭祀
第58回 (60.11.9)	縄文文化の起源 蕃付墨書からみた室町・桃山建築 古代の武具—飛鳥寺塔心礎の挂甲—	(61.5.24)	古代都城条坊制度の再検討
		特 別	真の「鎧師陳世」制作の神賦論を考ふる
		(61.10.26)	中国社会科学院考古研究所長 王 仲殊

(2) 現地説明会

発掘調査を行った現地を一般に公開し、調査研究の成果を公表している。

発掘調査場 年 月 日	発 掘 調 査 場 所	発掘調査場 年 月 日	発 掘 調 査 場 所
60. 6.29	平城宮跡第166次	61. 6.21	平城宮跡第172次
7. 6	平城宮跡第165次	7.19	藤原宮跡第49次
9.26~27	平城宮跡第167次現地見学会	8.23	平城宮跡第173次
10.19	藤原宮跡第46次	10.25	平城宮跡第172次北
11. 2	石神遺跡第5次	11. 8	石神遺跡第6次
11.23	平城宮跡第169次	11.22	藤原宮跡第50次
12.14	平城宮跡八条一坊・十四坪	12.13	平城宮跡八条一坊・十四坪
61. 3.15	平城宮跡第171次	62. 3.18	前塔
4.19	藤原宮跡第47次	3.28	平城宮跡三条二坊七坪

(3) 刊 行 物

イ、学 報

年度	名 称	年度	名 称
1954	第1冊 仏師運慶の研究	第24冊 高山一町並調査報告一	
	第2冊 修学院難宮の復原的研究	1975	第25冊 平城宮左京三条二坊
1955	第3冊 文化史論叢	第26冊 平城宮発掘調査報告Ⅴ	
1956	第4冊 奈良時代僧房の研究	第27冊 飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅰ	
1957	第5冊 飛鳥寺発掘調査報告	第28冊 研究論集Ⅲ	
1958	第6冊 中世庭園文化史	第29冊 木曾奈良井一町並調査報告一	
	第7冊 興福寺食堂発掘調査報告	1976	第30冊 五条一町並調査報告
1950	第8冊 文化史論叢Ⅱ	1977	第31冊 飛鳥・藤原宮発掘調査の記録Ⅱ
	第9冊 川原寺発掘調査報告	第32冊 研究論集Ⅳ	
1960	第10冊 平城宮跡・伝飛鳥板蓋宮跡発掘調査報告	第33冊 イタリア中部の—山岳集落における民	
1961	第11冊 院の御所と御堂—院家建築の研究—	家調査報告	
1962	第12冊 巧匠安何孫伝快慶	第34冊 平城宮発掘調査報告Ⅸ	
	第13冊 醍醐造系庭園の立地的考察	1978	第35冊 研究論集Ⅴ
	第14冊 唐招提寺礎「レース」と「金亀舍利塔」に	第36冊 平城宮整備調査報告Ⅰ	
	関する研究	1979	第37冊 飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅲ
	第15冊 平城宮発掘調査報告Ⅱ	第38冊 研究論集Ⅵ	
1963	第16冊 平城宮発掘調査報告Ⅲ	1980	第39冊 平城宮発掘調査報告Ⅹ
1965	第17冊 平城宮発掘調査報告Ⅳ	1981	第40冊 平城宮発掘調査報告Ⅺ
	第18冊 小堀遠州の作事	1984	研究論集Ⅶ
1967	第19冊 藤原氏の氏寺とその院家	第42冊 平城宮発掘調査報告Ⅻ	
1969	第20冊 名物製法の成立	第43冊 日本における近世民家（農家）の系統	
1971	第21冊 研究論集Ⅰ	的発掘	
1973	第22冊 研究論集Ⅱ	1985	第44冊 平城宮左京三条二坊六坪発掘調査報告
1974	第23冊 平城宮発掘調査報告Ⅵ	1986	第45冊 東御寺発掘調査報告

口、史料

年度	名	称	年度	名	称
1964	第1冊	南無阿彌陀仏作善業 (複製)	第15冊	東大寺文書目録第一巻	
1965	第2冊	西大寺教尊伝記集成	第16冊	日本美術院彫刻等修理記録VI	
1963	第3冊	仁和寺史料 寺誌編一	第17冊	平城宮木簡二 図版・解説	
1964	第4冊	俊乘坊重源史料集成	第18冊	藤原宮木簡二 図版・解説	
1966	第5冊	平城宮木簡一 図版	第19冊	東大寺文書目録第二巻	
1967	第6冊	仁和寺史料 寺誌編二	1980	第20冊	日本美術院彫刻等修理記録VII
1969	第7冊	平城宮木簡一 解説 (別冊)	第21冊	東大寺文書目録第二巻	
1970	第7冊	唐招提寺史料第一	1981	第22冊	七大寺巡礼私記
1974	第8冊	平城宮木簡二 図版・解説	第23冊	東大寺文書目録第四巻	
第9冊	日本美術院彫刻等修理記録 I		1982	第24冊	東大寺文書目録第五巻
1975	第10冊	日本美術院彫刻等修理記録II	第25冊	平城宮山土墨書上器集成 I	
1976	第11冊	日本美術院彫刻等修理記録III	1983	第26冊	東大寺文書目録第六巻
1977	第12冊	藤原宮木簡一 図版・解説	1984	第27冊	木器集成図録一 近畿古代篇一
第13冊	日本美術院彫刻等修理記録IV		1985	第28冊	平城宮木簡四 図版・解説
1978	第14冊	日本美術院彫刻等修理記録V	第29冊	興福寺興隆文書目録第一巻	

ハ、飛鳥資料館図録

年度	名	称
1976	第1冊	飛鳥白鳳の在銘金銅仏
第2冊	飛鳥白鳳の在銘金銅仏 銘文篇	
1977	第3冊	日本古代の墓誌
1978	第4冊	日本古代の墓誌 銘文篇
第5冊	古代の誕生仏	
1979	第6冊	飛鳥時代の古墳 高松塚とその周辺一
1980	第7冊	日本古代の埴屋
1981	第8冊	山田寺展
1982	第9冊	高松塚拾年
1983	第10冊	渡来人の寺 唐院寺と坂口寺
第11冊	飛鳥の水時計	
第12冊	小建物の世界 埴輪から瓦塔まで	
1984	第13冊	藤原宮 半世紀にわたる調査と研究一
1985	第14冊	日本と韓国の聖像
第15冊	飛鳥寺	
1986	第16冊	飛鳥の石造物
第17冊	万葉及衣食住	

ニ、基準資料

年度	名	称
1973	第1冊	瓦編1 解説
1974	第2冊	瓦編2 解説
1975	第3冊	瓦編3
1976	第4冊	瓦編4
1977	第5冊	瓦編5
1978	第6冊	瓦編6
1979	第7冊	瓦編7
1980	第8冊	瓦編8
1983	第9冊	瓦編9

ホ、地図 (大縮尺図、縮尺1:1,000、航空写真より図化)

区分	図化面数	図	化	地	域
平城京地域	75	押熊、桑原、中山、外山、扇列、渋谷、赤井谷、秋篠寺、山麓、西畑、歌姫、コナベ、ウツナベ、黒髪山、佐保山、船着寺、野神、西大寺、平城宮(ⅠⅡ)、法華寺、不遇寺、佐保、法蓮、東大寺(ⅠⅡ)、宝来、菅原、尾ヶ辻、北新、田村、蔵ノ町、一条、興福寺、春日野、春日神社(ⅠⅡ)、平松唐招提寺、六奈、柏木、八島田、大安寺(ⅠⅡ)、京終、元興寺、紀寺、新薬師寺、大池、薬師寺、西ノ京、杏、八条、神殿、射塚、北古市、龍野園(Ⅰ)、大職冠、西市、観音寺、羅城門、西九条、東九条、北永井、豊坂、横井、古市、南郡山、郡山、野垣内、下二橋、上三橋、北之庄、今市、帯解			
下ッ道地域	47	大師、若槻、美濃庄、井戸野、池田、威之庄、番茶、中蔵、発志院、馬司、伊豆七条、南八条、中、宮堂、二階堂、西嘉禰、高禰、庵治、溝藤、石見、西古、八尾、鍵、田原本、阪手、秦之庄、南阪手、多、笠縫、新口、西垣内、上品寺、新賀、額田部、額田部北方、穴脚、長菜、保田、唐院、沢、大野、小柳、大岩、乙木(ⅠⅡ)、佐保庄、竹之内			
飛鳥懸崖地域	48	木原、耳成山、常盤、西之宮、大福、今井(ⅠⅡ)、小原、鴨公、高殿北郎、膳夫、吉備、敵傍山、大久保、木殿、飛騨、高殿、香久山、池之内、池尻、久米寺、丈六、田中、富、與山、山田寺、鳥屋、菟田池、見瀬、和田、帯藤、飛鳥寺、八釣、越、野口、立部、穂寺、岡寺(ⅠⅡ)、東戸、松前、上平田、祝戸、飯田、観音寺、栗原、大根田、東常門			
計	170				

その他、編集図(縮尺1:2,000)

平城宮跡、藤原宮跡、藤原京(ⅠⅡ)、五条野、飛鳥、若槻荘、池田荘、小東荘、乙木荘

へ、年報

1958～1986毎年1冊 計29冊

ト、埋蔵文化財ニュース

1975～1986毎年数冊 計57冊

蔵書及び資料

蔵書

95,821冊（昭和62年3月30日現在）

区分	種別	購入	寄贈	計
61年度	和漢書	1,259	4,289	5,548
	洋書	140	41	181
累計	和漢書	42,050	47,682	89,732
	洋書	5,176	913	6,089

資料

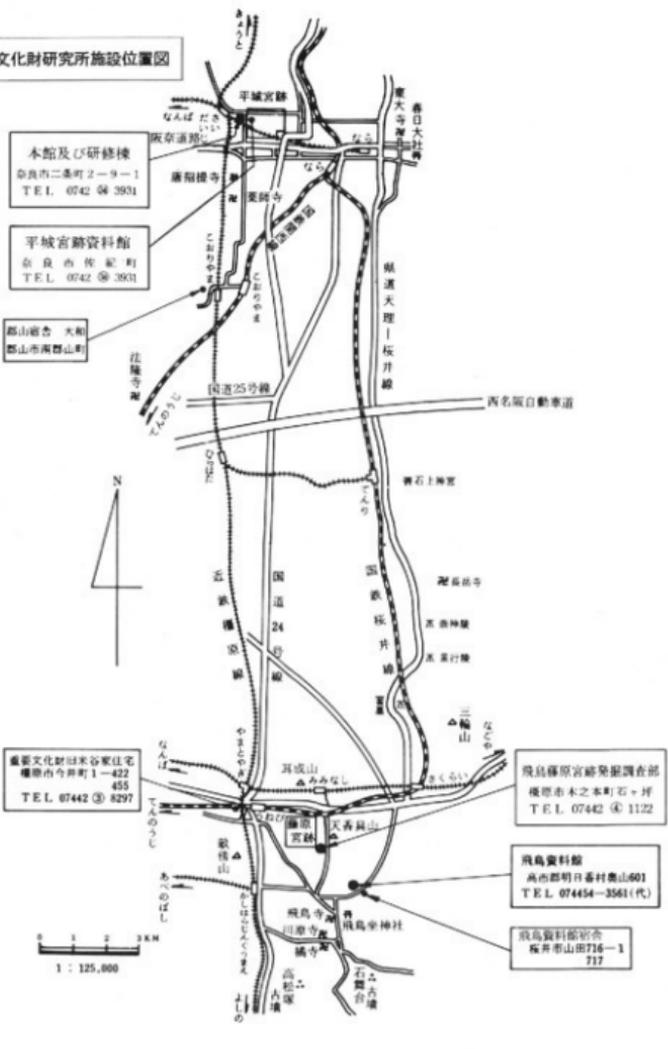
333,595点（昭和62年3月31日現在）

区分	キャビネ	スライド	ライカー	プローニー	ミニコピー	その他	計
61年度	2,750	4,332	5,069	3,441	46	270	15,908
累計	106,518	101,709	68,442	46,611	2,190	8,125	333,595



第三書庫 地図、実測図、拓本、航空写真口ルネガ
などを保管

奈良国立文化財研究所施設位置図



本館及び研修棟
奈良市二条町2-9-1
TEL. 0742 04 3931

平城宮跡資料館
奈良市佐紀町
TEL. 0742 04 3931

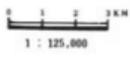
葛山前古 天照
葛山市南葛山町

橿原文化財旧米谷家住宅
橿原市今井町1-422
455
TEL. 07442 ③ 8297

飛鳥橿原宮跡発掘調査部
橿原市本之木町石ヶ坪
TEL. 07442 ④ 1122

飛鳥資料館
高市郡明日香村豊山601
TEL. 074454-3561(代)

飛鳥資料館南舎
板井市山田716-1
717



飛鳥藤原京・平城京関係略年表

西 暦	年 号	事 項	西 暦	年 号	事 項
538		仏教伝来	711	4	大宮大寺焼失
588	崇峻 1	飛鳥寺を造り始める	716	霊龜 2	大安寺を移す
593	推古 1	推古天皇豊浦宮に即位	718	養老 2	薬師寺・元興寺を移す
601	9	聖徳太子斑鳩宮を造る	730	天平 2	薬師寺東塔建立
603	11	小墾田宮に遷る	739	11	法隆寺夢殿、伝法堂建立
606	14	坂田寺を造る	740	12	恭仁宮に遷る。平城宮大極殿等を運ぶ
607	15	法隆寺を造り始める	744	16	難波を都とする
630	舒明 2	飛鳥岡本宮に遷る	745	17	平城宮に遷る。法華寺を造る
636	8	飛鳥岡本宮焼失、田中宮に遷る	752	天平 善宝 4	東大寺大仏開眼供養
639	11	百濟大寺を造り始める	755	7	平城宮改作
640	12	百濟宮に遷る	756	8	聖武天皇77忌に遺品を東大寺等に納める
641	13	山田寺を造り始める			
642	皇極 1	小墾田宮に遷る	759	天平 宝字 3	唐招提寺を造る。平城宮東朝堂殿を唐招提寺に施入
643	2	飛鳥板蓋宮に遷る	761	5	平城宮改作
645	大化 1	難波長柄豊碕宮に遷る			
653	白雉 4	中大兄皇子、皇極等と飛鳥河辺行宮に遷る	765	天平 神護 景雲 1	西大寺を造る
655	斉明 1	飛鳥板蓋宮焼失、飛鳥川原宮に遷る	767		西隆寺を造る。東院玉殿完成
656	2	飛鳥岡本宮に遷る			
667	天智 6	近江大津宮に遷る	784	延暦 3	長岡京に遷る
672	天武 1	飛鳥浄御原宮に遷る	794	13	平安京に遷る
680	9	薬師寺を造り始める。橘寺尼房焼失	809	大同 4	平城上皇、平城宮に遷る
691	持統 5	藤原京を鎮祭する			
694	8	藤原宮に遷る	824	天長 1	平城上皇崩去
710	和銅 3	平城京に遷る。興福寺を造る			

(表表紙写真) 鬼面文鬼瓦

平城宮の内裏西外郭から出土した鬼面の鬼瓦。高さ約40cmあり、平城宮で最大
の鬼瓦。天平年間に通官された内裏地域建物の屋根を飾った。

奈良国立文化財研究所概要

発行日 昭和62年5月30日
発行 奈良国立文化財研究所

